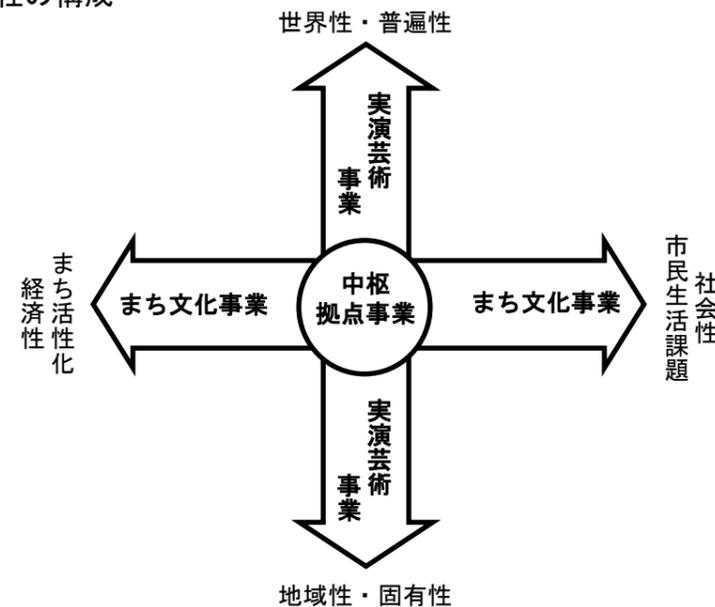


### 3. 事業運営の考え方

設置目的	機能構成	事業の柱	事業運営の考え方
ホールとともに、仙台の次代に向けた政策的戦略拠点形成	公演・鑑賞・発表機能	実演芸術事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大ホールでは、生の音源の響きに優れた大型ホール、多様な舞台芸術に応える大型劇場という2つの特性を活かし、多様な実演芸術の公演、鑑賞、発表の機会を提供する。また、小ホールは、市民の発表活動や市民協働で作品を制作していく場、小規模空間を活かしたプロの公演などの場としていく。</li> <li>○ 仙台国際音楽コンクールや仙台フィルの活用等既存の<b>楽都事業</b>を、他施設との連携を図りながら、一層質を高め、多くの人に魅力的で、これからの時代においても市民からしっかりと支えられる形に発展させていく。</li> <li>○ 仙台の実演芸術を牽引・触発するような活動を<b>公演事業</b>として実現したり、<b>制作事業</b>を行うことにより、仙台の実演芸術活動をより活性化し、仙台の文化の発信力を高める。</li> <li>○ ホールのみならず、ホワイエを活用したり、創作・練習部門の諸室を活用し、実演芸術の質の向上を図ったり、多様な市民に多様な糸口を提供してすそ野の拡大を図る<b>育成事業</b>などを展開していく。</li> <li>○ 市民の発表の場であるとともに、東北の拠点都市として、市民のニーズが高く、広域からも開催が求められる様々な実演芸術公演、文化的な大会などが適切に実施できるように、積極的な<b>貸館事業</b>を行っていく。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     誰もが集え、交流できる「広場」としての文化施設                 </div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     市民に支えられた楽都をさらに高める                 </div>	創造・創作・練習機能		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     文化芸術を介したまちづくりを進める                 </div>	文化力発揮機能	まち文化力事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>まちづくり事業</b>：実演芸術事業と連携し、誰もが自由に憩える場において、常時魅力ある演出、ミニコンサートやパフォーマンス、映像提供、展示などを展開する。また、施設内外での事業展開、文化芸術によるエリアマネジメント展開により、新たなまちの魅力の形成を図る。それらにより、施設への集客のみならず、交流人口や回遊人口、インバウンドの拡大を図る。</li> <li>○ <b>文化力活用事業</b>：復興の力となった文化力を継承し、さらにこれからの少子高齢・人口減少社会に活かしていくために、教育、福祉、医療、コミュニティ、産業などとの連携を図り、地域社会の課題解決、社会包摂の実現、共生社会の実現につなげる。まだ、手法などが確立していない面が多いので、多様な専門機関、市民団体等との連携を図り、協働して取り組む。</li> </ul>
	まちづくり機能		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     復興の力となった文化力を社会に活かす                 </div>	交流機能	中枢拠点事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仙台市の総合的文化芸術振興の中核拠点として、音楽ホールのマーケティングだけではなく、文化芸術の多様な価値を活かし、社会的な課題の解決に取り組むための専門機関の役割を果たす。仙台の文化芸術の状況の分析、課題の把握を行い、今後の活動の方向性や取り組むべき活動などを検討し、情報提供、戦略構築などを行う。</li> <li>○ 特に、これからの社会に必要な<b>人材育成事業</b>、文化力を活かした取り組みを市域全体に広げるための<b>地域連携事業</b>に取り組む。</li> </ul>
	人材育成機能		

#### ■事業の柱の構成



#### ■事業運営の課題

- **整備事業の進展に応じた検討**：事業運営については、今後、基本構想、基本計画と整備事業の段階に応じて具体化していくとともに、施設設計と並行して管理運営計画を作成し、設計と対話しながら現実化していく。
- **総合的な検討**：音楽ホール単体で考えるのではなく、仙台市文化芸術振興の課題として、既存事業、既存施設、既存関連団体等を含め総合的に検討していく。
- **先行的な取り組み**：既存事業、すでに取り組まれている活動などを含め、将来像に向けて、人材育成など基盤的な取り組み、パイロット的取り組みなど、できることから始め施設整備、開館までに蓄積していく。
- **早期の事業体制の構築**：指定管理者制度によれば、具体的な事業主体の決定には設置条例の制定が必要となるが、できるだけ早期に核となる事業体制の構築を目指す。

## ■事業内容の例示

事業名	事業項目	活動・事業例示
実演芸術事業	楽都事業	○ 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバルの主要会場、仙台フィルハーモニー管弦楽団の公演 など
	公演事業	○ 国内の先導的施設との連携ネットワークによる優れた実演芸術の公開、社会包摂の視点に立った幼児・子ども・障害者等への鑑賞機会提供 など
	制作事業	○ 多様な制作過程に市民が参画する総合舞台芸術の制作、国内他施設との共同制作など
	育成事業	○ 子ども等次世代育成、高校・中学などの実演芸術関連部活動等の育成、クリニック、実演芸術に係る体験的講座、スキルアップ講座など
	貸館事業	○ 仙台のホール現状課題を踏まえ整備するホールであり、その特性を活かし、多様な活動に公演の場を提供することが重要な役割であると考えられる。施設利用者から選択され、使われる施設となり、来館者からここで鑑賞したいと言われるような魅力的な貸館事業を検討していく。 ○ 管弦楽、合唱、吹奏楽、オペラ、バレエ、ダンス、ポップス、ミュージカル、演劇、能楽、歌舞伎、邦楽・邦舞、パフォーマンス、芸能、演芸、メディア・アート、新たな表現技術を駆使した公演など、多様な実演芸術活動に場を積極的に提供する。また、全館を利用するような文化芸術に関する大会などの開催ができるようにする。 ○ 市民利用施設予約システムとは異なる予約システムの検討が必要と考えられる。
まち文化力事業	まちづくり事業	○ 「楽都」のとらえ方を「楽しみの都」に広げ、まちづくりのなかに文化芸術を位置付ける。特に立地する周辺地域に対しては、文化芸術によるエリアマネジメント、施設内外でのまちイベントの開催などによる新たなまちの魅力創出、創造的な界限形成、回遊性の向上などを図り、集客力を高め、交流人口の拡大につながる。
	文化力活用事業	○ 復興過程で大きな成果を挙げた、文化芸術の持つ力を地域社会課題、市民生活課題の解決に活かしながら地域や暮らしに根ざした文化芸術の推進を図る。教育、福祉、介護、医療、地域商業、コミュニティなどテーマごとのプロジェクトを立ち上げ、モデル事業など、専門機関や市民団体等と連携して取り組む。
中枢拠点事業	人材育成事業	○ 従来のホールマネジメント人材だけではなく、まちづくりや社会的課題と文化芸術の橋渡しができる人材など、文化芸術の多様な価値を推進していくための人材を育成する。市域の文化施設の運営人材だけではなく、障害者施設など多様な分野の施設の人材、地域で活動している市民団体の人材など、幅広い視点で人材育成に取り組む。
	地域連携事業	○ 文化芸術によるまちづくりの推進、文化芸術の力を地域社会課題や市民生活課題の解決に活かす、といった文化芸術の多様な価値を活かして市民生活とまちの活性化を図る取り組みを市域全体に広げていくために、提言を行ったり、情報提供、相談など、中間支援的な役割を果たす。 ○ 人材育成事業と連動しながら、市域のホール施設や文化団体など様々な主体との連携を図り、協働事業などの展開により、地域施設の活性化につなげるとともに、各施設を拠点として市域全体に音楽ホールの目指す活動を広げていく。